■第6回定例会のご報告

【アジェンダ】

日時：2010年5月22日（土） 13:00～17:00

場所：日本科学技術連盟 1号館 3階 講堂

内容：

- * ドラマ
マスク着用によるインフルエンザ予防のエビデンスはあるか？－EBMによる検討－
EBM統計グループメンバー

- * 検量線を考える 背景説明と考え方 富山 茂巳（クレハ分析センター）
- * 招待講演 検量線を考える
濃度測定における「重み」の付け方の事例 秋山 功（ビー・エム・エル）

第6回定例会は、29名の参加（内、会員21名）の下、活発な討議が行われました。

最初は、EBMの方法論を第1期医薬安全性研究会の名物であったドラマに仕立てました。

昨年大きな話題となったインフルエンザ流行時のマスクの使用を題材に、問題の設定、文献の調査と吟味、データの見方などEBMの実際の進め方を、新聞社での記者達の事例に置き換え、EBM統計グループのメンバーの方々が熱演されました。フロアからは、マスク着用について各社や大学などでの事例の紹介などがあり、大いに盛り上がりました。

今後、EBMの方法論が一般化し、様々な分野で活用されてゆくことを期待しております。

2つめのテーマの「検量線を考える」については、今後体系的な取り組みを予定しております。

今回は、クレハの富山氏にイントロダクションとして実務家が日頃抱えている課題を整理し、どのような問題があるのか紹介していただきました。

招待講演として、ビー・エム・エルの秋山氏に、重み付き回帰分析について解説をお願いしました。

最近の分析機器には検量線作成機能があり、「重み」が選択できますが、重み付き最小二乗法を適切に使う為に考えなければならない点について説明していただき、実際の実験データを元に、Excelで解析する方法についても紹介していただきました。その後、フロアの分析機器メーカーの技術者も加わって、機器で行っている解析の話

や統計専門家による解説などが熱心に行われました。

定例会後は、そのまま会場において簡単な懇親会が開催され、今回のテーマを話題に活発な交流を図る事ができました。

今回の「検量線を考える」につきましては、今後の展開が期待されます。
自社でこれらと関連した事例を手がけておられ、更なる検討を考えておられる方は是非参加されることを期待しております。

定例会につきましては、今後更に魅力ある企画を準備してゆきますので、関心のある方々の参加をお願いいたします。

なお、本定例会資料は、会員ページにて入手することができます。

また、討議の内容につきましては、現在 Q & A と併せて資料として作成中です。
近々、会員ページからダウンロードできるようにいたします。